

平成26年9月1日
総務省
全国過疎地域自立促進連盟

平成26年度過疎地域自立活性化優良事例表彰団体の決定

総務省及び全国過疎地域自立促進連盟は、平成26年度の過疎地域自立活性化優良事例として、総務大臣賞4団体及び全国過疎地域自立促進連盟会長賞2団体を下記のとおり決定しました。

なお、表彰式については、来る10月9日（木）午後1時20分より、三重県伊勢市で行われる「全国過疎問題シンポジウム2014 in みえ（全体会）」（午後1時開会）において執り行います。

1【過疎地域自立活性化優良事例表彰】

本表彰は、地域の自立と風格の醸成を目指した過疎地域の取組を奨励するため、創意工夫をもって過疎地域の活性化に取り組み、優れた成果を上げ、過疎対策の先進的、モデル的事例としてふさわしい団体であること等を審査の基準として、優良事例を過疎地域自立活性化優良事例表彰委員会（委員長 宮口 侗迪（みやぐち としみち）早稲田大学教育・総合科学学術院教授）において選定のうえ、表彰するものです。

2【受賞団体及びテーマ】

◎総務大臣賞（4団体）

団体名	テーマ（キャッチフレーズ）
岐阜県 特定非営利活動法人 飛騨小坂200滝 (下呂市)	滝の数日本一！ 「滝めぐり」で町おこし！
三重県 島の旅社推進協議会 (鳥羽市)	島のかあちゃんたちがもてなす「島の旅」
島根県 益田市真砂地区 (益田市)	公民館と学校と地域商社との協働のトライアングル による地域運営の仕組みづくり
鹿児島県 特定非営利活動法人 額娃おこそ会 (南九州市)	地域総力戦によるまちおこし

◎全国過疎地域自立促進連盟会長賞（２団体）

団体名	テーマ（キャッチフレーズ）
三重県 ビジョン ^{はいだ} 早田 実行委員会 (^{おわせし} 尾鷲市)	わが町、そしてかけがえのない故郷早田の存続にむけて
徳島県 もんてこい ^{にゅうだに} 丹生 谷 運営委員会 (^{なかちよう} 那賀町)	もんてこい 丹生谷

※全国過疎地域自立促進連盟は、過疎関係都道府県及び過疎地域市町村等を会員とする団体で、会員相互の緊密な連絡提携により、過疎対策事業の充実強化を図り、過疎地域の自立を促進し、過疎地域における産業、経済の開発振興と地域住民の生活、文化向上を図ることを目的とする団体です。

連絡先

総務省自治行政局過疎対策室

担 当：山口、高木

代 表 電 話：０３－５２５３－５１１１

内 線：２３１３６

直 通 電 話：０３－５２５３－５５３６

F A X：０３－５２５３－５５３７

全国過疎地域自立促進連盟

担 当：橋本、萩原

直 通 電 話：０３－３５８０－３０７０

F A X：０３－３５８０－３６０２

(参考)

平成26年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰 受賞団体一覧

1 総務大臣賞(4団体)

県名	市町村	団体	テーマ(キャッチフレーズ)	事例の概要
岐阜県	げろし 下呂市	特定非営利活動法人 飛驒小坂200滝	滝の数日本一！「滝めぐり」で町おこし！	「NPO法人飛驒小坂200滝」は、少子高齢化が進み、また、「日本一滝の多い町」として知られながらも年々観光客の減少が続いていた下呂市小坂町において、この状況に歯止めをかけ、この地域資源を生かしたまちづくりを目的として、平成18年に設立された。 設立以来、「滝めぐり14コース(76滝)」を設定し観光客のガイドを行うと同時に、地域の魅力を後世に引き継ぐために市内の小・中・高校へ出向き、小坂の滝めぐりや地域資源の素晴らしさを紹介する活動を行ったり、市民を対象とした滝めぐり体験ツアーを行ったりするなど、精力的に活動している。 また、地域の人々と連携して、御嶽山麓に抱かれた豊かな自然と地元に古くから伝わる文化、伝統を訪れた方に体験していただく「小坂スタイル」というツアースタイルを提唱することで、周辺施設の利用者増にも寄与するなど、小坂地域のみならず、下呂市全体の地域活性化に寄与している。
三重県	とばし 鳥羽市	しま たびしや 島の旅社推進協議会	島のかあちゃんたちがもてなす「島の旅」	鳥羽市は、市内全域が伊勢志摩国立公園に指定されており、特に有人離島は恵まれた自然とそれぞれ島特有の歴史文化を有している。 平成17年の中部国際空港の開港にあたり、一人でも多くの人が鳥羽市を訪れるための「島の旅社」構想が鳥羽市戦略プランの中で提案され、この構想をもとに、島の女性と島外から島に嫁いできた女性を中心となって、鳥羽市にある島の住民により、平成16年に「島の旅社推進協議会」が設立された。 以後、島の資源を有効に活用した海女小屋体験、浮島自然水族館など各種体験メニューのプロデュースを行い、地域と連携しながら、様々な事業を展開している。これらの体験メニューの取組により、毎年1,300人を超す参加者があり、交流人口の増加や島への経済効果を生んでいる。
島根県	ますだし 益田市	まさご 益田市真砂地区	公民館と学校と地域商社との協働のトライアングルによる地域運営の仕組みづくり	少子高齢化が加速度的に進行する「益田市真砂地区」は、自治会単位でのコミュニティ維持が困難な状況にあると同時に、そこには、地区の未来を担う子どもたちと共に地域づくりに関わろうとする意識が強くあった。 このような状況の中、公民館が核となって、未来を担う子どもたちとそれを取り巻く学校や保護者と地域の経済力向上を図る地域商社を巻き込んで、協働のトライアングルを形成した。 そして、多くの地区住民が関わっていきける「食育活動」に着目し、地域に元気をもたらすキープポイントとなる「地域づくり(地域課題に取り組む)」・「学びの場づくり(地域を理解する)」・「なりわいづくり(地域雇用の創出)」に取り組み、多様・多世代の住民の地域活動への関わりの中で地域力の向上を生んでいる。
鹿児島県	かみかきゅうしゅうし 南九州市	特定非営利活動法人 頼娃おこそ会	地域総力戦によるまちおこし	「NPO法人頼娃おこそ会」は、地域経済の衰退による人口流出や少子高齢化等が顕著であり、また、その景勝を観光誘致に生かしていなかった頼娃地域のまちおこしを目的として平成19年に設立され、①まちづくり事業 ②体験型観光事業 ③特産品事業等を中心に活動している。 現在最も活発な取組は、釜蓋神社や番所鼻公園、大野岳などの観光資源を用いたまちおこし活動であり、観光雑誌にも掲載され、観光地としての認知度の向上に繋がっている。 また、観光誘致の動きが頼娃地域内の他地区へ波及し、観光と地域、農業、商工を横断する組織が誕生するなど、観光連携の輪が広まり、同時に、これらの活動に地域住民が参加することで市民の郷土意識向上にも寄与している。

(参考)

平成26年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰 受賞団体一覧

2 全国過疎地域自立促進連盟会長賞(2団体)

県名	市町村	団体	テーマ(キャッチフレーズ)	事例の概要
三重県	おわせし 尾鷲市	ビジョン ^{はいだ} 早田実行委員会	わが町、そしてかけがえのない故郷早田の存続にむけて	尾鷲市早田町は、高齢化率66.23%と、同市内の他地区に比べても過疎・少子高齢化が著しく、基幹産業である大型定置網漁をはじめとする水産業の振興や後継者対策などが急務であった。 このような状況の中、地域づくりの中心となる「ビジョン早田実行委員会」が産官学連携により発足し、生活・産業・人口問題などを多面的に捉えた地域活性化事業が、「自分たちのできることを、自分たちで可能な範囲で」という考え方のもと、住民主導で行われてきた。 また、(株)早田大敷などの『産』、慶應義塾大学や三重大学などの『学』、関係する行政機関などの『官』などとの協働により、地域資源である豊かな海・山の恵みを生かした地域活性化を図り、地域課題の解決実践に向けて、多面的に事業が実施されている。
徳島県	なかもろう 那賀町	もんてこい ^{にゅうだに} 丹生谷運営委員会	もんてこい 丹生谷	「もんてこい丹生谷運営委員会」は、過疎化・少子高齢化が進む那賀町において、この地を取材していたジャーナリストの「地元に戻ってこないなら、こっちから東京の息子のところへ押しかけて行こう」との提案がきっかけとなって、町内の有志により平成21年に設立された。 これまで、平成21年から毎年、開催地を東京、那賀町、大阪、東京と変えながら、ふるさとの良さを、ミュージカルやビデオレターなどにより町出身者を含む都市部住民へ伝える交流イベントを行っており、参加者のうち3世帯5名が帰郷移住するなど、運営委員会の活動が町の活力を取り戻すことにつながっている。 また、幅広い年齢層が一丸となって舞台を創るという経験を共有し、多世代が交流する場ができたことで、ふるさと回帰を訴えるだけでなく、町住民自身のふるさとへの愛着が一層育ち、5町村が合併して生まれた「那賀町」が本当の意味で1つになれるきっかけになっている。